島根 議員会 県神社庁

止の観点から書面による表決に変更とな き続き新型コロナウイルス感染症拡大防 和二年 一度定 ?例協議員会は昨年度に引

令和三年度 庁運営方針について

庁

庁 長 角 河 和 幸

申し上げます。 ご協力を賜っておりますこと、厚く御礼 島根県神社庁の諸施策に格別のご理解と 界の興隆にご尽力いただき、 県内神社関係者の皆様には、 神社本庁、 日 夜、 斯

されておりますこと、 天機愈々麗しく、 畏くも天皇陛下におかせられましては、 日々公務にお励み遊ば ご同慶の至りに存

> 0853-53-2149 FAX 0853-53-2582

第350号 根県神社庁 **〒** 699 − 0701 出雲市大社町杵築東 286

たが、 姿を拝し、 での御臨席を仰ぐこととなりました。 じます。 祈り申し上げ、 第でありました。改めて皇室の弥栄をお 人々に画面越しに応じられた両陛下のお 止の観点から、 陛下が行幸啓遊ばされる予定であ めることを誓うものであります。 かしながら、 国植樹祭には、 新型コロナウイルス感染症拡大防 本来であれば、 洵に有難く感激に堪えない次 現地で小旗を振る島根 残念ながらリモート中継 十八年ぶりに天皇皇后両 皇室敬慕の念の醸成に努 島根県開 開催の全 りまし 0

六十二回式年遷宮における積極的な奉斎 神宮大麻の頒布につきましては、 前年比四三%の大幅な減少となりました。 宮への参拝者数が五 ていましたが、 活動により、 日も早く 本宗と仰ぐ神宮におかれましては、 海び訪 感染症が収束し、 れるよう願ってやみません。 高い参宮の気運を維持され 昨年はコロナ禍により両 五三万人余りとなり 多くの参拝 昨年は

> なり、 喚起に努めると共に、 理想に向け、 域内全戸で神宮大麻が奉斎されるという された明治天皇の聖旨を奉戴し、 体の減体となりました。令和四年には神 く所存でございます。 宮大麻全国頒布百 神宮大麻初穂料改定後初 さらにはコロナ禍による経済活動 も相俟って、 なお一層の増頒布を推し進め 国民全戸への神宮大麻奉斎を仰出 あらためて神宮崇敬の念の 残念ながら四、二四五 五十周年の節目を迎え 神職・ ての 総代 頒 氏子区 二丸と

とご協力をお願いすると共に、 関係各所との連携を密にして対処する所 関する情報収集をはじめ、 と考えております。今後も当該感染症に ても、 況が続いております。当庁といたしまし をはじめ、 祭礼における神賑行事の規模縮小や自粛 社界においても当該感染症の影響を受け、 予断を許さない状況であります。 クチン接種が開始されたとはいえ、 存でございますので、 も尚全国各地で猛威を振るっており、 いては、 さて、 この状況下に鑑み、 新型コロナウイル 慎重な対応を取らざるを得な 従来通りの行事が行えない状 皆様方にはご理解 神社本庁及び 開催事業に ス感染症は今 県内神 ワ

うお願い申し上げます。感染防止に万全を期していただきますよ

ます。 ては、 に直面 地域の神社を護持するうえで多くの課題 激な少子高齢化と過疎化の影響を受け、 索しながら教化活動を執り進めてまい ところであります。 神職後継者問題について中国地区教化委 まいります。また、 員会で協議を重ねており、 のため斯界一丸となって取り 過疎地域神社活性化推進施策」をはじ |四県と情報を共有 島根県の神社界を取り巻く環境は、急 県内神社振興対策を多方面から進展 過疎地域神社全体の振興を図って 本年より二期目を迎える本庁施策 しております。当庁といたしまし 神社本庁及び中国地 中国地区においては 有効な対策を模 この問題 組んでいる 解決

庁

様の変わらぬご理解とご協力を切にお願 ります。斯界発展のために、 がら勇往邁進してまいりたいと考えてお 適正かつ円滑 れます。 務にも大きな支障をきたすことが予想さ ル ス感染症終息の目処が立たない中、 申し上げます。 後になりましたが、 現状と課題を整理し、 な業務の在り方を検討しな 型コ 関係者の皆 より一 口 ナウイ 層 庁

総務委員会

活動方針〉

事業計画

した。 みても九月に全てが完了する見込みは薄 係者大会」については、 芸術文化センターグラント すると開催を中止せざるを得ないと判 いため、 ルス感染症に関する先行きが不透明な上 予定している「第七十二回島根県神社関 令和三年九月十四 現在のコロナワクチン接種 関係者各位の安全・ Ħ 新型コロナウイ 益 ワ」で開催を 田 健康を考慮 市 状況に鑑

与することとしたい。

なお中止となった場合でも顕彰については実施し、例年記念式典内でおこなっては実施し、例年記念式典内でおこなっては実施し、例年記念式典内でおこなっては実施し、例年記念式典内でおこなった場合でも顕彰につい



て業務の効率化を図ってまいりたい。

運営については中長期的視野にた

教化委員

活 動 方 針

いる。 けて教化活動を推進してまいりたい。 かにし、皇室敬慕の念の更なる醸成に向け継いできた伝承に見られる精神を明ら 認識し、我々の祖先から世代を超えて受 紀に記された三大神勅の重要性を改めて 三大神勅の心を次世代へ」と定められて 令和四年度) 継いできた伝承に見られる精神を明ら 神社本庁の教化実践目標(令和二年 本年はその二年目として、 の主題は 「御大典を期して、 日本書 -度~

層の本宗奉賛活動に努めてまいりたい。 麻全国頒布百五十周年を見据え、 道教化の原点である。 者とを結び、敬神崇祖の念を継承する神 のまつりを通して神宮と神社、 宮大麻の頒布と奉斎の為の活動は、 に向け着々と準備が進められている。 本宗と仰ぐ神宮においては、次期 令和四年の神宮大 氏子崇敬 より一 家庭 遷宮 神

庁

事等にも大きな影響をもたらし、 ス感染症の拡大により、 社会構造や生活環境の変化による共同体 神社の護持運営、 更には新型コロナウイル 祭祀継承の現況は、 祭礼及び神賑行 極めて

困難な状況を迎えて

実践目 め、 割をこれまで以上に果たすべく、 神社においては、当該感染症対策を講じ 社の振興策に取り組んでまいりたい。 ゆかなければならない。 つつ、祭祀の厳修、 識の昂揚と地域共同体の恢復を図り、 及び広報活動を有効的に展開し、 を踏まえ、一般県民に対し各種教化活動 庁及び各支部においては、 この状況を少しでも打開 神社が地域共同体の紐帯としての役 標及び当県教化活動実践目標大綱 氏子意識の啓発に努 神社本庁教化 すべ 氏子意 努めて

質向上を図ってまいりたい。 活動となることが予想されるが、 拡大防止の観点から、 教化活動の実践により、神職の意識と資 今年度も、新型コロナウイルス感染症 制限された中での 有効な

教化活動実践目標大綱

- 皇室の姿を、 敬慕の念の喚起に努める。 広く正しく伝え、 皇室
- 「三大神勅の心」を次世代に継承す 神宮大麻全国頒布百五十周年を見据 普及に努め、 べく、 青少年の心の教育に寄与する 神話教育の充実、伝統文化の 国家と郷土を敬愛する

- 宮の促進に努める。 神宮大麻のより強力な頒布活動と参 神宮奉賛の意義啓発を啓蒙
- 氏神神社と家庭及び地 祭祀の厳修を通して氏子意識 振興と継承に努める 域 のまつりの を高 8
- 神社の公共性を顕現し、 地域の活性化に努める。 て地域社会との連携を深め、 祭祀を通じ 神社と
- 神職としての研鑽に励み、 活動を実践する。 の護持運営に寄与する具体的な教化 奉仕神社
- ※各支部ともこの目標大綱にしたが 実践に努める。 て、それぞれの教化活動計 画を立て つ

事業計 画

皇室敬慕の念の喚起及び正し 柄の啓発活動の推進

①祖先より受け継いできた三大神勅の精 べく、 化 昂揚を図るとともに、 神を明らかにして、 の普及に努める。 神話教育の充実を図り、 神職・ 次世代に継承す 氏子意識 伝統文 0

②皇室敬慕の念を喚起すべ 材として活用するとともに、季刊誌『皇 作成資材及び季刊誌 『皇室』 を教化資 神社本庁

活動を推進し、 国家意識の涵養に努め 国旗揭揚

神宮への参拝促進と神宮大麻頒布

県教化委員会の取り組 み

)神社本庁が推進する第三期「三カ年継 適応しうる効果的かつ具体的な対策を 対策をあらためて調査研究し、 とする諸施策及び他の神社庁における 続神宮大麻都市頒布向上計画」を始め 検討する。 本県に

(1)

②令和四年の神宮大麻全国頒布百五十周 努める。 年を見据え、 より強力な増頒布活動に

庁

③広告媒体の活用や神道講演の機会を設 けることで、 麻奉斎の意義を周知する。 一般県民に参宮と神宮大

各支部の取り組み

令和四年の神宮大麻全国頒布百五十周 宮奉賛の意義を周知する。 年を見据え、 神宮大麻全国頒布の意義について 神宮を「本宗」と仰ぐ所以につい 神職及び総代に対して神 7

- (2)、神宮及び神社本庁発行の教化広報資材 義を周知する。 を活用し、 平素から神宮大麻奉斎の意
- (3)対策を具体的に講ずる。 「ふるさと便」につい て 一 層の増 頒布
- (4)各支部は神宮大麻申込み時に、 画書も併せて提出する。 頒 布計

地域社会の活性化の推進 家庭祭祀・地域のまつりの振興と

氏神神社参拝や神棚奉斎、神宮大麻頒 成する。 社頭環境の整備に努め、崇敬の念を醸 発と家庭祭祀の振興を図るとともに、 的に展開し、神宮大麻奉斎の意義の啓 布促進等を目的とした広報活動を積極

(2)崇敬者との交流を通して神社への協力 ともに、神社関係組織との連携、氏子・ 〕地域活動や社会活動等に積極的に参画 体制を整える。 神社に対する一層の理解を促すと

(3)過疎地域神社活性化推進施策指定神社 その成果を共有し、 及び地域への支援・協力体制を整え、 神社の興隆に努め

(4)一神道の自然観を啓発するために、 を通して、 神社を取り巻く自然や地域

> の歴史・文化に触れる機会を積極的に 鎮守の森の保護育成に努める。

四 神道講演・社頭講話活動の活性化

神社振興を導く神道教化の具体的対策

参加促進を図る。 をより活発にすべく各種研修の開催及び の大きな柱の一つとして、 講話や神道講演を位置づけ、その活 神職による社

五 1)全国教化会議 各種教化会議及び研修について

に開催予定となっている。 標の確認を目的とした会議 神社本庁の教化活動方針、 教化実践目 来年二 月

2)中国地区教化会議

ことを目的とし、本年は岡山県で九月に 化活動上の共通の課題に取り組んでいく 開催される予定である。 主として、中国 「地区内で生じている教

に予定していたが、新型コロナウイルス ③島根県神社庁教化委員総集会 神昂揚研修会併せ三部合同教化会議) 本会については、開催を七月中旬ごろ (国 民 精

聘も困難であることから本年の 感染状況の全国的な悪化により、 開催は断

1 (4)中国地区社

頭講話研修会

管で開催する予定となっている。来年(令和四年)の五月頃、島根県主

70 (1

布向上計画」について一、第三期「三カ年継続神宮大麻都市頒

策実施」について「第二期「過疎地域神社活性化推進施

である。

である。

である。

である。

である。

である。

策内容が第一期から変更となったため、ければならないが、これについては、施改めて指定神社及び拠点支部を選定しな本年七月より第二期目の実施につき、

また、 該当する宮司が所属する支部長にヒアリ 指定神社及び拠点を選定した。 度から総合的に検討した結果、 ングを実施した。ついては、 損なわないためにも、 ことなどを考慮し、)実施期間/施策一、 年七月一日から令和六年六月末日迄。 期の選考基準と異なるところもあり、 施策適用が汎用的に出来てしまう 施策の意図、本質を 予め、選考基準に 施策二共に令和三 あらゆる角 次の通り

【施策一(指定神社)】

島後支部 賀茂那備神社(野津研吾宮司)島後支部 賀茂那備神社(野津研吾宮司)

氏さて成は長口寸無寸であり、入口成総代をはじめ氏子からの信任も篤い。勉且つ熱心な姿で取り組んでおり、神社はもとより、神社の護持運営・興隆に勤年宮司就任)は、神明奉仕、祭祀の厳修年宮司就任)は、神明奉仕、祭祀の厳修

(弓まつり)」を通して、地域の興隆に取地域をあげて斎行される古伝祭「音手祭少・少子高齢化が進む地域ではあるが、氏子区域は農山村漁村であり、人口減

り組まれている。

備にあたっている。子及び地域住民が一丸となり、計画・準とした「まちづくり」を、宮司、総代氏財に指定されたことにより、神社を中心財に指定されたのとにより、神社を中心財に指定されたのとにより、神社を中心

更なる神社整備を行う予定である。
今後、県の文化財指定も目指しており、

○三年間を通しての活動計画

- る。・社報を作成し、定期的に発行を予定す
- ・本殿が町文化財に指定されたことを記
- 載したリーフレットの作成。
- 参道)
 ・境内の整備(拝殿・手水舎、境内の池・
- 関係性を強固にする。・子ども会の更なる充実を図り神社との
- ある子ども達への入会促進) (氏子関係者等、当該地区にゆかりの
- 青年会組織結成を目指す。
- 広報に努める。
 ・行政との連携を図り、島内外へ向けた
- 本殿の県文化財指定を目指す。

(推進拠点)]

邑智支部(大元神楽伝承保存会)

特殊神事が斎行される。しかしながら、 において一定の周期で斎行され、国指定 続に取り組み、 この施策を通し、 多くの課題に直面しているところである。 元神楽の技術伝承また、 化及び人口減少により過疎化著しく、大 支部地域は中山間地域であり、少子高齢 重要無形民俗文化財「大元神楽」により 大元神楽式年祭は、邑智支部管内神社 神社及び地域の振興を図 技術の伝承と祭祀の継 祭祀の継続など

援対象地域とした。 結することからも、 される大元神楽式年祭が、 きなかったこと、また七年一回りで斎行 ロナウイルス感染症の影響により斎行で 終年度に予定されていた神事が、 期の選定地区であったが、第一期の最 また、大元神楽伝承保存会は本施 第二期も継続して支 あと三年で完 新型コ 策第

庁

○三年間を通しての活動計画

その技術保持者である神職を派遣す 邑智支部管内神社七社で予定され る大元神楽式年祭への神職の派遣 、大元神楽式年祭は特殊神事のため、 てい

- は、 数年に一度斎行される大元神楽式年祭 の一部を支援する。 多くの経費が必要となるため、そ
- 大元神楽式年祭の祭具である託 した組織作り。 に使用する藁の確保及び製作を目的と 稲藁製作、託綱・俵製作の技術伝承等) (圃場の確保、稲の採取) 俵

県内神社における新型コロナウイル 況調査について ス感染症の影響及び対策に関する現

アンケート結果を集計しており、 五月にアンケート調査を実施した。現在、 影響と各神社が講じた対策について本年 当該感染症がもたらした県内神社への 報告書を作成し各支部へ配布する。 分析の

祭祀

活 動 方 針

引続き支部祭式助教の教育にも努めてま 職の祭式研修を徹底し、資質向上を図る。 りたい。 更に、 祭祀の厳修を一層推進すべく、 祭式指導者の育成をはかるため、 現任神

計 画

- 支部祭式助教の研修会を令和 月もしくは二月中に開催する。 年
- 各部会及び各支部に於ける祭式研修 会の奨励を図る。

広 報委員会

活 動 方 針

報誌として神職及び総代が関心を持つ う、内容の充実に努めてまいりたい。 島根県神社庁報について、 神社庁の広 ょ

計 画

島根県神社庁報を年四回発行する。

神社 定 デ

般会計予算大綱

に亘り一億円前後で推移している。 神社庁財政は、 歳入面においては、新型コロナウイル 歳入歳出共に過去十年

より一

層厳

且.

つ、

適切に執り進めて

まいる所存である。

令

和

Ξ

年

度

神

社庁予

算

状況を異にする年度となることが予想さ

歳出予算の執行については

のように、

昨年に引き続き通常とは

議を例年より多く開催する必要があるた

これに対する支出増が見込まれる。

年にあたる今年度は、

協議員会等の諸会

の支出減が予想される一方、 態の変更等が生じる場合には、 とでの予算編成とした。 例年通りの財源が確保できる見通し 金が例年より多く生じたことから、 る支出減の結果、 これらによる歳入減がある一方、新型コ 減 支部負担金については一 神社の財政状況を考慮し、 ス感染拡 末迄適用することで、 付期限を、 ナウイルス感染拡大の影響を受けて、 .額して納付をお願いすることとした。 また、 特に特別神社寄贈金については四割 例年八月末迄の早期納入還付金 行事等の中止が相次いだことによ 大の影響により、 特別神社負担金は一割減額と 通常納付期限である明年一月 令和二年度からの繰越 実質二割減額とす 割減額すると共 逼迫する県内 昨年同様に、 ほぼ 0)

> [単位:円] 本年度予算額 帛 料 565,000 穂 料 1,050,000

【歳入の部】

幣 初 交 付 金 56,000,000 負 担 30,127,600 金 賛 協 1,800,000 金 諸 収 入 4,160,000 繰入 金収入 1,000,000 越 金 17,000,000 繰 計 111,702,600 合

役員改選の 関係予算 症対策の推移に影響されるところが大き

会議・行事等の中止もしくは開催

庁

派 出 面

では、

新型コロナウイ

ルス感染

【歳と	出の部]	[単位:円]		
	科	目		本年度予算額
幣	帛		料	1,144,000
神宮	神徳宣揚	費交	付金	22,717,000
儀	礼		費	800,000
祭	儀		費	700,000
会	議		費	3,040,000
庁			費	34,790,000
事	業		費	150,000
教	化		費	17,730,000
納	付		金	1,500,000
負	担		金	15,875,000
繰	出		金	4,300,000
予	備		費	3,000,000
次	期繰	越	金	5,956,600

活 動 方 針

いる。 舞われてきたが、その都度、祈りを通し 我が国は度々大規模自然災害や疫病に見 を続けておられる。 行による国難の中、 や歴史的文献、各地の祭りを始めとする 年からの新型コロナウイルス感染症の流 伝統行事は、 て君民一体となり、 畏くも天皇陛下におかせられては、 秩序と平穏を恢復してきた。 このような国の姿を伝えて 忍耐強く危機を乗り 国の安寧を祈る祭祀 歴史を振り返ると、

団体との情報交換を進め、 と予算を効率的に動かせる組織体制を整 の活性化が不可欠であり、 など神社関係者を中心とした有志の活 えていかなければならない。 して取り組める事柄を精査しながら人員 この麗しい国の姿を後世に伝えるため 皇室の尊厳護持や自主憲法の制定 まずは関係諸 共通の課題と 動

合

計

111,702,600

症の世界的な流行はもちろんのこと 国際情勢は 新型コロナウイルス感染 日々動い ており、

社界の推薦候補の支援に全力を尽くした なく論議することが求められる。 かった深刻な事象が多発する現状におい 個人主義など、 乱に乗じた近隣諸 二十六回参議院議員選挙についても、 環として、 我々は後世に問題を先送りすること 来夏に予定されている第 現行憲法が想定していな 玉 0 行き過ぎた その

地 かなければならない。 |域の祭りや伝統行事の継 以県本部の会員一同は、 結成五十周年を迎える神道政治連盟島 県内の良識ある世論を興してい 今一度襟を正し、 承に力を注ぎ

令和三年度事業方針

皇室の尊厳護持運

自主憲法制定運 動

匹 靖國神社・護國神社参 世に伝える活動 教育の正常化と正し い歴史観を後 拝 勧 英

霊顕彰事業の推進

五、 政教関係訴訟対策

活

動方針

国家主 竹島を巡る諸問題 権と領土を巡る諸問 0) 対応 題

0

年大田市で開催された第七十 樹祭にオンラインで御臨場なされ

天皇皇后両陛下におかせられ

ては、 回全国植 た。

本

八 自然災害等緊急時への対策と復興

皇陛下

のお手植えの御様子を仰ぎ見、

天

令

和

Ξ

年

度

神

政

連

予 算

+ 九 神政連島根県本部設立五十 組織の充実 神社の護持 時局に応じて取り 承に 組 向けての む 対 周 対策 年事

令和三年度事業計

会員增強運動 (目標一、四〇〇名 0) 展開

会員の種別について

季刊誌 靖國神社及び松江・ 『皇室』 の普及

四 の参拝勧奨 濱田護國神社

珏 第二十六回参議院議員選挙 友好団体との連携の強 0) 対 応

【収入の部】

[単位:円]

本年度予算額 科 Ħ 会 費 1,800,000 補 助 金 700,000 付 950,000 金 特別協賛金 100,000 本部協賛金 180.000 旅費助成金 500,000 収 453 入 越 金 1,330,547 繰 5,561,000 計

【支出の部】

[単位:円]

7	計	1	本年度予算額
会	議	費	500,000
教	宣	費	1,000,000
納	付	金	1,800,000
本音	邹協查		180,000
事	務	費	250,000
事	務手	当	50,000
旅		費	600,000
補	助	金	800,000
雑		費	40,000
予	備	費	341,000
	計		5.561.000

である。 室尊崇の念の涵養に 層努めてゆく 所

び多くの参拝者が訪れることを祈るばか 禍により を見せているところであったが、 れては、 本宗と仰ぎます伊勢の 御代替もあり参宮気運の高まり 両宮の参拝者数が大幅な減少と 日も早く感染症が終息し、 神宮におか コロナ させら

をはたすべく一層力を尽くしてまいりた 歴史と、先人の神宮大麻頒布にかけた熱 りである。 認識すると共に、 意に思いを巡らし、 治天皇の聖慮を畏み、 れてより百五十周年の佳節を迎える。 明年は神宮大麻 神社役員・総代の使命 全国頒布の意義を再 今日に至るまでの が全国 頒 布さ 明

と振興を図るとともに、 域づくりの役割を再認識し、祭祀の厳修 来を迎え、地域共同体の崩壊が懸念され の恢復に邁進しなければならない。 ている。地域社会の中核となる神社を取 さて、 、々は神社の果たしてきた国づくり、 巻く環境は真に厳しいものがあるが、 我が国は今、 人口減少社会の 地域共同体意識 地 到

感染症 が万事滞り無く遂行できるよう協議 及び自治体等の対応を注視 変化する感染状況について、 神社関係諸行事が延期・中止となってい 及ぼす事態となっており、各所に於いて ざるを得ない状況となった。 立五十周年記念事業」についても、 イルス感染症は、 全国規模で猛威を振るう新型コロ 予定していた「島根県神社総代会設 の影響を受け、 神社界全体にも影響を 内容の再検討をせ 今後の政府 日々刻々と この事業 ナウ

> 討を重 社庁と共に次の諸施策を展開する。 国神社総代会の方針に基づき、 ナウイルス感染症対策に留意しつつ全 ね 島根県神社総代会は、 執り進 8 てま りた 島根 新型コ

口

ものである。 活動について一 各支部総代会においても、 【実践目標】の達成に向け、 層の取り組みを期待する 神職と協 具体的な 力

実践目標・具体的な活動

皇室敬慕の念の涵養と皇室に対する 正しい認識を推進する

- 皇室敬慕の念の喚起に努める
- にして、氏子意識の昂揚に努める 継いできた三大神勅の精神を明らか 神話の世界観を学び、祖先より受け
- 季刊誌 『皇室』の普及に努める
- 皇室カレンダーの普及に努める

神宮崇敬の念を喚起する

- 令和四年に迎える神宮大麻全国 布の促進に努める 百五十周年を見据え、 神宮大麻増 頒 頒 布
- 参宮促進に努める
- 神宮崇敬会への加入促進に努める

家庭と地域のまつりの振興を図り、 地域社会の再生・発展に努める

地域や家庭のまつりを通して、 神社神道の本義である祭祀の厳修と、 会の再生、 神社本来の姿の継承と発展に努める 地域の人々の心のよりどころである な活動に努める 会における役割を再確認し、 奉斎の推進に努める・神社の地域社 意識を啓発し、各家庭における神棚 発展を図るため、 積極的 地域社 氏子

我が国と郷土を愛する意識涵養のた 及び国旗掲揚活動を推進する 祝日の意義啓発と国歌斉唱

次代を担う青少年、 に努める 氏子総代の育成

青少年が神話の心を学び育む機会を 担えるよう、 積極的に創出し、 青少年の健全育成に努 地域教育の役割を

0

氏子総代としての知識、 祭りや行事への参加促進に努める 氏子青年会の結成をはかり、 を実施し、 対策を講じつつ各種研修と教化活 つけるため、 後継者育成に努める コロ しナ禍の 中、 作法を身に 充分な 神社 業の一環として、

冠をつけ記念大会

大麻頒布促進及び、 般向けの神社参拝、 などしかるべき時期に、

新型コロナウイ 神棚奉斎、神宮 神社参拝、

神棚奉斎及び神宮大麻頒

の観点から、

中止した。

布促進にかかる広報活動

島根県神社庁と共同で、

広く県民一 年末年始 新型コロナウイルス感染症拡大防止

四日開催、

於益田市)については、

県神社関係者大会(令和三年九月

での開催を予定していた本年の島根

科

雜収入

繰越金 収入合計

成を通じて、 植樹等を推進し、 根ざす神道観の涵養に努める 自然への畏敬と感謝に 鎮守の森の保護育

適切な神社運営をはかり、 護に努める 神社の奉

- 必須事項の理解に努める 『改定神社役員・総代必携』を活用し、
- 期するとともに、 "所轄庁への提出書類" 提出期限の厳守に の正確性を

報

主要事業の計画

第七十二回島根県神社関係者大会

島根県神社総代会五十周年記念事

第五十六回神社総代会全国大会への 念事業』の計画・準備の遂行 『島根県神社総代会設立五十周年記 を掲載する。

ルス感染症対策の注意喚起

記念誌の作成

参加

(於広島市

令和三年 度 総代会予算

【収入の部】 [単位:円] 本年度予算額 目 助成金 1,000,000 賦課金 1,841,420

288

1,213,292

4,055,000

[士山の並] [#4.m]

【文出の部】	[単位:円]
科目	本年度予算額
会議費	450,000
事務費	20,000
事務手当	70,000
旅費	700,000
教化研修費	1,190,000
負担金	548,200
雑費	100,000
予 備 費	976,800
支出合計	4,055,000

況に応じて)を目的とした新聞広告 (感染状 |七十五周年記念表彰者||本庁

本庁設立75

り行った。 後に神殿で執 24日支部長会 伝達式を6月 周年記念表彰



庁

副計分長長長 期以上勤続の者及び十年以上勤続の 本庁役員、評議員、 本庁神社庁職員 忌 角 田部河 知範正 神社庁役員を三 宏雅 孝 幸



平天稻深八大荒仰日朝多須八日氷濱荷野幡神神器神佛神神神神神神神 山八幡 重山 鳩 神 神 倉 川 神 神 神社社社 社 社 宮 社 社宮社 宮司 宮司 宮司 宮司 宮司 永小篠古永石金朝宇勝森日津 村糸中高 橋本木川岡田戸瀬見原本山巻 部山野 日上賀村松尾木田 義正章安雅光和道興昇英和和一武矩勝秋 久哲 光 紀 一 興 矩 典 秋 則 治 弘 夫 義 治 明 承 臣 穗 男 光 丸 臣 明 在 毅 保 哉 輝

九社神社 社 宮 宮 宮司 宮司 宮司 宮司 宮司 福金須山春古福晴村長伊 島築佐本日瀬島木尾妻藤玉木原織 原島角田田 \blacksquare 里 尾松家浦 和成正宣友薰 浩 禧 建正貴文崇茂 久征宣由和雅 佳 尊重 彦宜紀彦生卿昭臣禊也祐興博宏紀巳紘則貴夫周良男典守穂紘

七

神社の総代又は責任役員にして功労

責任役員兼総代

Ш

井

玄

九

神宮大麻頒布功労者

屋裏八幡宮

宮司

齋

藤

岩神

社

上

英好文

敏文崇

宮

 \Box

里夫孚朗德紀之

美保神社 神事世話人 教化又は神社の興隆に功労のある者

六

1保神社 神事奉賛会事務局長小 松 久寿夫

幡宮宮司中林雅之吉神社宮司綾部正上角邦男

八住





取

消

松江

市西川

津町

熊野神社

記

奉納品



基づく島根県神社庁特別神社取り消付けで島根県神社庁特別神社規程にいて、左記神社を令和三年七月九日県神社庁協議員会(書面表決)にお東神社庁協議員会(書面表決)にお

しの旨、決定したので公告します。

令和三年七月九日

島根県神社宣

7 污長

和

幸

PF

誠にありがとうございました。

營宮司称号授

(令和三年六月二十日付) 江 角 宣 彦阿須利神社名誉宮司(出雲市大津町)

神

職

任

免

(令和3年4月30日~7月1日

6

任 免 任 免 任 任 免 3 3 3 3 3 3 3 5 1 発令月日 5 5 4 30 7 6 5 1 30 11 10 1 金 冏 安冨神 奉職神社名 屋子神 [須利神 " 社 社 社 益田 安来市広瀬町 出雲市大津町 鎮 市安富町 " 11 " 座 地 本 本 本 本 本 兼 本 宮 宮 宮 袮 宮 宮 袮 職 司 司 司 司 宜 名 司 宜 中島 安部 江角 江角 中島 宮﨑 氏 圭司 正哉 岐彦 宣彦 良光 庸博 安則 名

庁 務 H 誌

(令和3年4月~6月

4 月 12 4 月 10 \exists (11 長参列 濱田護國神社慰霊大祭 H 初任神職研修 於 神社庁 於 濱田護國神社 (9名参加 (角河庁

4 4 克 17 月 14 Н \exists 広報委員会

庁

大社國學館入学奉告祭並式典 藤理事参列 於 大社 國學館 後

5月 11 Н 河庁長出席 教化委員会石見部会役員 会 於 濱 田 護國神 社 角

5 月 28 日 5 月 27 日 常任委員会w 神社庁長会w е b会議 b会議 於於 神社庁(神社 庁 (角河庁 角 河庁長出 出 席 席

е

6 月4日 総務委員会

6 月9 Ħ 教化委員会

階位検定講習会講 師会議

6 月 14 \mathbb{H} 宮司辞令交付式

月 15 \exists 教化委員会出雲部会後期総集会 於 神社庁 金築

> 6 月 22 H 参事出 庁 務担 当者会w е b会議 於 神社庁 金築

6 月 24 日 長会

" 周年記念表彰 表彰状伝達式 (神社本庁規定表彰・本庁設立七十五

6月27日 島根県女子神職会設立三十周年記念式典 (篠田副庁長、 金築参事出席 於 神社

神社検定we b 開催

帰 隠岐郡:

幽 鹿足郡 津和野 町 幡 令和

士町 令和三年六月二日御碕神社 宮 十五 司 日秋 享年九十二

三年六月

日 司

宮

村

享年八

七丸

十

歳

四輝

歳

海

謹んで哀悼の意を表します。

島根県神社庁長 角 河 和

幸

職 神

宮や 水が 安す 崇か

住所」島根県鹿島町古浦二三三 〔生年月日〕 平成十一年一月二十五 H

[奉職神社] 惠曇神社 古浦天満宮

新任神職紹介

(就任年月日) 令和三年四月二十五

H

趣味・特技 茶道

誠心誠意神職として勤める所存です。 (ひとこと) 氏子の皆様と支え合い、 より良 い地域にしたく、

のモチバナ祭でも使われるクロモジ

↑ 社☆ガール通信

美保関のジオパーク&

発見されているらしいですよ。お正月 と2000万年前のクロモジの化石が 物の化石がよく見つかっており、 浅い湖であった古浦層の地層からは植 しくなっているそうです。主に河川や らなっていて、 浦層と、1600万年前の成相寺層か は主に2000~1800万年前の古 生による地質解説です。美保関の地層 午前中は島根大学大学院の入月俊明先 研修に関わらせていただいています。 があることから、社☆ガールもガイド 大地』のことで、 施いたしました。ジオとは、『地球 オパークの社☆ガールガイド研修を実 この日訪ねたのは美保関地域です。 島根半島・宍道湖中海 南から北に向かって新 島根の神話にも所縁 (国引き) ジ



地層が見える場所

子もよくわかりました。
砂と泥が交互に重なっている地層の様場所に入月先生に案内していただき、
びっくりしました。地層がよく見える
こんな時代から美保関にあったのだと

島に上陸でき、神社に行くこともできる明島神社が建つ明島には、海底に積があります。今回は遥拝させていただがあります。今回は遥拝させていただかあります。今回は遥拝させていただけあいて海の方へ。海津見命が祭られ

にて記念撮影をしました。岩場のコントラストが絶景の惣津海岸ますよ。青い空と海、白い砂浜と黒い

午後からは美保関灯台へ移動して、午後からは美保関灯台へ移動して、対合の説明や、内部に展示してあるレンズや隕石のレプリカ見学の後、地の知島・沖の御前島の選明などには入月先生に対の説明や、内部に展示してあるレンズや隕石のレプリカ見学の後、地の知前島・沖の御前島の選拝所などを巡御前島・沖の御前島の選拝所などを巡りました。



地の御前島・沖の御前島の遥拝所

庁

階段や来待石の大きな狛犬を紹介し 船で大変に栄えた歴史や商家につい て研修会を終了しました。 の解説をし、美保神社の四国御影の 石畳や使われている森山石と笏谷石 場所を移して青石畳通りへ。 江戸末期から整備されたという

るので、気になった方はぜひ現地に です。本当に気軽に行ける場所にあ 行って、ジオを感じてみてくださいね。 れたりすると、また感動もひとしお 地層や岩石などを間近に見たり触



惣津海岸での記念写真

支部だより

稲の力」

大田支部 山辺八代姫命神社 櫻井田 鶴子

護神、医薬の神として石東一帯から参拝者 摂社粟島神社は少彦名命を祀り、婦女の守 崇敬も篤く延命長寿の神様として信仰され 式内社として栄えてきた。又、八幡神は鎌 町に鎮座する山辺八代姫命神社、摂社の粟 で賑わった古社である。 八幡宮から勧請された。久利氏、毛利氏の **倉時代建仁二年(一二○三年)京都石清水** 奈良県宇陀郡笹畑の宮からお迎えし、延喜 上前の桓武天皇の御代延暦二年(七八三年) 島神社の大注連縄が十年ぶりに奉納された。 本殿の御祭神天照大神は、約千二百年以 令和二年十一月十五日(日)、大田市久利

による稲作農業離れ、核家族化、過疎化、更 画を立ててきたが、近年の異常気象、高齢化 厳を損なうため、令和二年を新調の年と計 縄は、すでに十年の歳月を経過し、神社の尊 にコロナ感染流行の不安の中ではあったが 奉納してきた。聖と俗の結界である大注連 大注連縄は先代の櫻井貞光宮司から受け で、平成十二年、二十二年と十年ごとに

> 目処もたち、消毒、マスク着用での奉仕活動 氏子の努力により新藁の確保、技術提供

何と勇ましいことか。 恵まれ、一所懸命に一同が助け合い、持ち前 仕され、「奉納祭」 は後日、新嘗祭に合わせ の力量を発揮した。三本の注連縄を組む た。一連の作業は全て氏子の手によって奉 づくり」「芯づくり」と進め、十一月十五日 人々との魂が組み込まれると、不思議なこ て執り行った。心配していた奉納も晴天に 「ヨイショヨイショ、エイエイ」の掛け声の (日) 「大注連縄新調取替奉告祭」を斎行し まず「藁より」から始め、「薦編み」、「房 まるで魂振りである。



藁より



生命 始め

力と保

たのだ。 て輝き

た稲 存力に 納され 0) 0 根 通 である。 いいは の·日 ち·本 感 優 n 極 れ

森に響き渡った。 こみ上げた。 氏子一 同喜び の歓声 戸が鎮守

まるもの

柄であることが理解できる。 は日本の根幹が太古から変わらぬ恒久な事 が構築されていった。このことからも稲作 時を経て社会ができ、国柄と精神性 稲 驚いてしまう。 作から助け合 米にしても藁にしても生命力のすごさに 稲作農耕は国 いの共同体が発生し、長い の宝である。 (国

第に滅んでいくと言われているが、陛 神様と共食されて稲魂を授けられると伺 いることを教えられる。 ている。 姿からも米の文化が連綿と受け継がれ 天皇陛下も稲作りをなされ、新嘗祭には 文化を捨てた国の秩序は乱れ、 この根底にはお米 下

> と言う意識がある。 は神様からの賜物であり祖先の命でもある

藁

がが 本

う。 秋の新嘗祭で五穀豊穣を祈る祭りを執り行 注連縄を掛け替えた当社でも春の祈年祭、 しに溶け込んでいる。 わりゆく時代であっても脈々と流れ、暮ら を越え、日本の美しいこころとかたちが 垂が飾られている。 聖な場所には必ず その中には、悠久の時 ありがたくも新しい 注 連 縄 が張ら れ ′、変 紙

使命をこのように担っている。 神社の祭りは、命の繋がりを護る重要な



完成取付

記

迎える。その間、この町を訪れる県内外の多く 楽は、平成二十二年開始以来今年で十二年目を 許可出来ず、約一年間中断していた。この夜神 ウイルス感染防止の為、これまで神社としても の観光客に親しまれて来た。 た毎週土曜日の夜神楽を再開した。 私の兼務神社では、 今年四月から恒例となっ 新型コロナ

何度も平行線を辿った。 を重ねた。特に問題視されたのは、 ては、 感染の恐怖から理解と協力が得られず、 入込客が多い事である。 しかし、このコロナ禍での夜神楽再開につい 昨年から地元の方や関係者と何度も会議 やはり当初はウイルス 観光面での

を避ける予備訓練も併せて実施した。その結果 この勉強会が功を奏し、 めた。その上で、 温等の具体的な対策を体験してもらい理解を求 対策の勉強会を開いた。そして参加者には、 意を得ることが出来た。 こうした中で、 地元の方や関係者を対象とした、 地元神楽社中は夜神楽再開に 実際に神楽を上演して、三密 やっと参加者全員の同

コロナ禍での夜神楽再開が、 い日常を取り戻す第一歩になれば幸いである。 この町全体

発行日 令和三年八月十五根県神社庁報〈第三五〇号 〈第三五〇号〉 Н

発行者 広報委員会 島根県神社庁

陶山 浩正 語工

副委員長

委委委 員員員 石江宮 﨑角能 彰 壮矩恵充